

非核兵器国の原子力潜水艦建造計画 苦難の歴史

参加費無料

講師: 谷弘 たに ひろし

2022年7月30日(土) 14:00~16:00 Zoomにて開催 (ルームオープン 13:30)

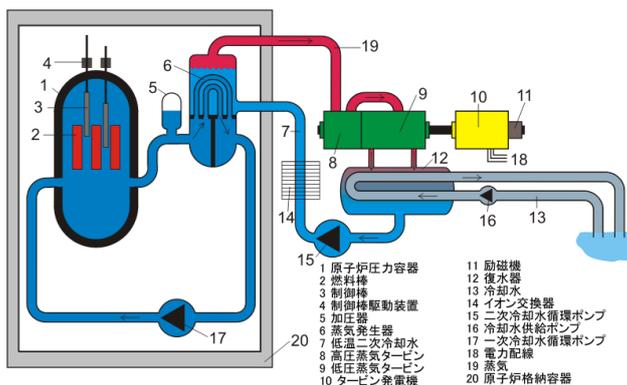
現在の原潜保有国は、核拡散防止条約 (NPT) の核兵器国 (米英仏露中) と核実験を実施し経済制裁を受けたインドの6ヶ国である。しかし、非核兵器国の原潜建造問題は、NPTが検討されていた1960年代から存在していた。初期段階ではイタリアとオランダが関心を持っており、1987年には、カナダが原潜小艦隊の取得計画を発表したがいずれも実現しなかった。

また、NPT加盟国でなかったブラジルとインドにも原子力潜水艦問題が起こった。インドは、1974年の核実験実施により経済制裁を受けたが、1988年にロシアからリースの形で原潜提供を受け実現したが、ブラジルはアルゼンチンとの軋轢もあり、現在も建造造船所の整備段階である。

北朝鮮は、金正恩総書記が昨年年初頭に発表した重要計画の中に原潜計画も入れており、韓国も計画検討中といわれ、懸念されている。このような中で中国を念頭に、2021年9月に米英豪の新たな防衛協力「AUKUS」が発表され、オーストラリア初の原潜配備支援が決められた。さらに、これらに加えて、ウクライナ問題も発生し、日本でも与野党を問わず原潜議論が始まっている。



米初の原潜「ノーチラス」[出典:米国防省]



原潜に搭載される加圧水型原子炉 [出典:Wikipedia]

■谷弘 (たに ひろし) 日本海事史学会会員

1963年海上保安大卒、海上保安庁、運輸省、総理府、科学技術庁に勤務。1992年国際原子力機関 (IAEA) 査察情報処理部長就任。1997年日本原子力研究所理事。著作:「全面核実験禁止条約 (CTBT) とその発効に向けた準備作業」(JAERI-Review)、「原子力船むつ計画から改役まで」(日本海事史学会誌)、「千石船の湊を訪ねて」(芸立出版)等

●関心をお持ちの方ならどなたでもご参加いただけます。
メールでお申し込みください。

※希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。
お申込みいただいた方には7月27日(水)までにご連絡いたします。

●会員にはメールでご案内をお送りしています。
メールが届いていない方は、右の申込先までお問合せください。

■申込〆切: 2022年7月26日(火) 正午 (12:00)

■申込先: kaijishi.web@gmail.com (担当: 大野)

メールの件名を「日本海事史学会 Web 例会申し込み (非会員)」
として、本文にはお名前をお書きください。

[今後の例会 開催予定日: 2022年9月24日(土)・10月22日(土)・11月26日(土)]

日本海事史学会は、海事一般に関する歴史・法律・民俗・水産・考古・船舶・航海・海運など、海事史だけにとどまらずひろく海の人文学、社会科学等あらゆる分野に関心を持つ学界や在野の研究者の方々の交流をはかる総合研究の“場”です。

【主な活動】専門学術誌『海事史研究』の発行 (年1回) / 総会 (年1回)・例会 (8月と総会開催月を除く年10回) など

